

J R 東海 労 幹 関 西 地 「 申 」 第 2 2 号
2 0 1 7 年 1 2 月 1 5 日

東海旅客鉄道株式会社
新幹線鉄道事業本部関西支社
支社長 大山 隆幸殿

J R 東海 労働組合新幹線関西地方本部
執行委員長 小林 國博

「34A車両故障」に関する緊急申し入れ

12月11日、のぞみ34号が車両故障により名古屋駅で運転を打ち切る事態が発生した。博多駅発車後から車両に異常があったことは、マスコミ報道からも判断できる。

乗務していた車掌にも異常を知らせる状況が伝えられたとも言われている。しかし、即時運転停止の判断には至っておらず、約3時間運転を継続した。

新大阪で引き継いだJR東海の車掌が巡回すると異常な音が即確認されたとも言われている。このような異常な事態は、一歩間違えば列車火災、脱線、転覆につながるような事態であった。

このような中、会社は来年3月に車掌の乗り組み数を削減し2名体制とする提案を強引に押し進めようとしている。

ひとたび2名体制になれば今回のような異常事態の発見、対応が遅れるばかりか旅客の避難誘導の対応が出来ない事態を招くものである。

よって車掌の削減・2名体制の提案を即時中止し、安全を守るために現乗り組み体制を継続するよう緊急に申し入れる。

記

1. 東海道新幹線の車掌を削減する提案を即時中止すること。
2. 安全を守るため、車掌の現乗り組み体制を継続すること。

以 上